

しめやかに
戦没者・消防殉職者
合同追悼式

小川総合福祉センターあじさいホールで5月25日、戦没者・消防殉職者合同追悼式がしめやかに行われ、遺族や来賓約三百人が参列しました。

式典で川崎町長は「戦後60余年が経過し、改めて尊い命を戦争に、あるいは消防業務に捧げられた御霊を遺族、関係機関の皆さまとともに偲び、那珂川町民がひとつになつて、新町の発展に努力することを誓います」と追悼の辞を述べました。

その後、議会議長や遺族会代表、消防団長などの来賓が献花しました。



馬頭高校生が
みそ造り体験

5月19日、馬頭の金子商店で馬頭高校3年生の生徒たち20人がみそ造りの体験を行いました。

昔から伝わっている地元にしかない味、本物の味に触れようと選択科目「フードデザイン」の授業の一環として行われました。麴作りから仕込みまでを2週に渡る体験で造られたみそは、これから半年間かけて熟成後、12月に行われる校内競争大会の豚汁に使うということです。



漁業組合などが
那珂川にアユ放流

水産業や観光の振興、河川愛護の一環として行っている那珂川へのアユ放流が5月19日、小川総合福祉センター東側付近で行われました。

この日は、あいにくの雨で小学5年生出席による式典を急ぎよ取りやめ、那珂川南部漁業協同組合小川支部と那珂川中央漁業協同組合小川支部の関係者15人が約12センチの稚魚三千七百尾、53キログラムを放流しました。

アユは川の中へ放流されると元気に飛び跳ねながら、上流へと泳いでいきました。



県の施設を見る「県民バス」
日光自然博物館などを見学

県北県民センター主催の県の施設を見る「県民バス」が5月24日開催され、当町から39名が参加しました。

見学場所は、日光自然博物館とイタリア大使館別荘記念公園の二カ所です。

参加者は日光自然博物館の高さ4層、幅20層の三面マルチスクリーンから写し出される四季折々の日光の自然の映像に魅了されました。

また、イタリア大使館では「高価なドイツ製のガラスを使っており、改修するのに一億五千万円かかった」などの説明を受け、興味深げに聞いていました。



カヌーで川くだり体験

馬頭高校水産科の3年生14人は5月25日、カヌーによる川くだり体験を行いました。この川くだり体験は、河川環境の実態調査とカヌーの操作技術習得を目的に毎年行われているものです。

出発式では、増渕校長から「今まで十分に訓練を積んできたと思うが、危険も伴います。川の様子をよく観察しながら思い出に残るすばらしい日としてください」とあいさつ。生徒の一人は「今日を楽しみに待っていました。頑張って行きます」と元気にオールを漕ぎました。



馬頭西小で田植え

5月23日、馬頭西小学校で田植え体験学習が行われました。

最近では、田植えを機械でするところが多く、子どもたちのほとんどが田植えの体験は初めてです。はだし、短パン姿になった児童たちは、先生から田植えについての説明を聞き、もち米の苗を受け取り、泥の感触を確かめながらゆつくりと田んぼに入っていました。

最初は「ぬるぬるして気持ち悪い」と言いながらも、田植えを終えた後には「楽しかった」「泥んこになって大変だったけど、おもしろかった」と笑顔で話していました。



高齢者交通安全教室

5月22日、健武小学校校庭で地元の高齢者クラブのメンバーら30人が集まり高齢者交通安全教室が行われました。

教室は、交通事故防止のポイントなどが那珂川警察署員から説明された後、校庭に書かれた模擬交差点などをを使い自転車に乗ったり、歩いたりしました。また、今年4月から発足した警察スクールサポーターの熊久保さんから「児童、生徒の安全を守るために地域をよく知っている高齢者の方のご協力をお願いします」と話がありました。

教室終了後は、安全協会女性部健武支部婦人会から参加者全員に、けんちんうどんが振る舞われました。



三校合同の演劇教室

5月22日、健武小学校体育館で和見小と馬頭西小、健武小の三校合同で、劇団らくりん座による演劇教室が行われました。

この演劇教室は、ゴミの減量化とリサイクルについて理解してもらおうと、児童たちの意識の高揚を図ることを目的としています。

演劇のはじめには「山小僧の頼みごと」と題した公演で空き缶やペットボトルなどのリサイクルについて、改めて資源としての価値観を再認識していました。

